

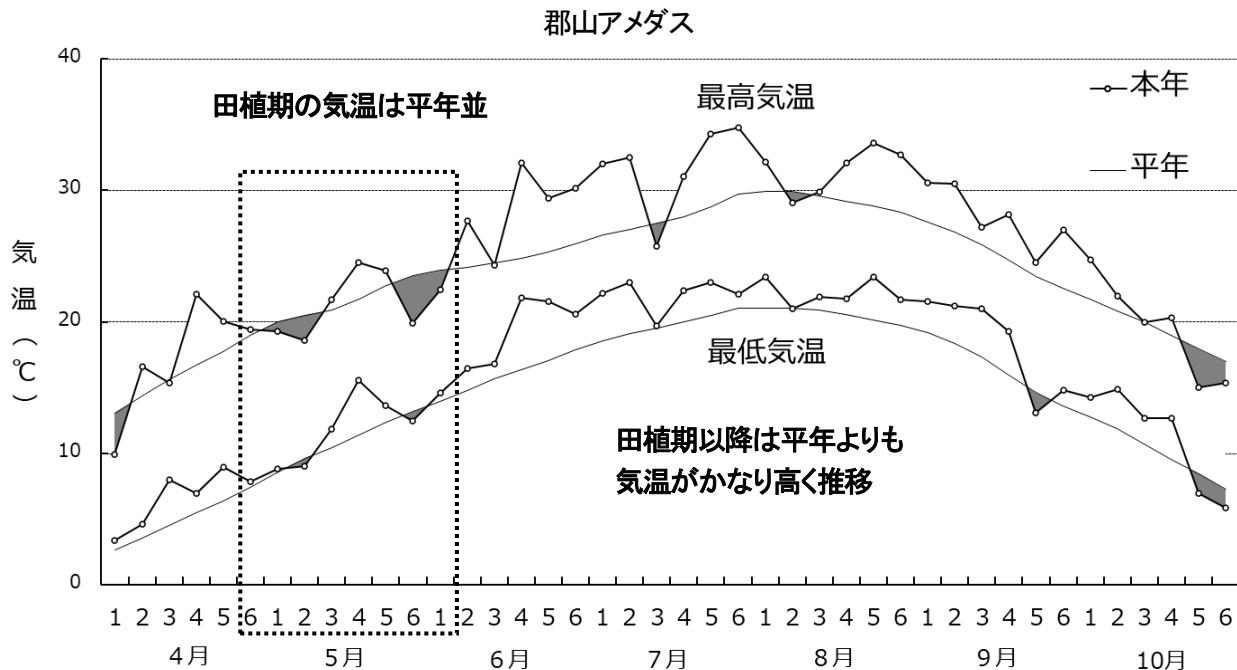


稻作情報 第8号

(令和7年度作柄概況)

JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

1 気象経過



2 生育概況

(1) 生育期(表1)

○平年より気温が高く推移したため、出穂期及び成熟期は平年より数日程度早まった。

○7月17日時点(幼穂形成期～減数分裂期)の葉色は平年よりも淡かった。

表1 生育ステージ及び生育調査結果 (平年は令和2~6年の平均値を使用)

	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	6月20日調査				7月17日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齡 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齡 (枚)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	8/4 9/15	45.3	610	8.6	38.6	79.6	504	11.5	30.0
須賀川市	平年	8/5 9/19	44.7	586	8.0	42.9	77.0	570	10.7	34.5
長沼	平年差・比	-1 -4	101	104	0.6	-4.3	103	88	0.8	-4.5
コシヒカリ	本年	8/4 9/16	49.4	491	8.7	40.6	85.5	620	12.0	31.7
須賀川市	平年	8/6 9/20	40.7	342	7.7	41.5	77.5	521	10.4	37.9
岩瀬	平年差・比	-2 -4	121	144	1.0	-0.9	110	119	1.6	-6.2
コシヒカリ	本年	7/31 9/14	49.4	610	10.3	41.6	88.6	495	12.3	30.6
石川町	平年	8/5 9/20	44.0	495	7.9	37.9	74.9	474	10.6	33.0
	平年差・比	-6 -6	112	123	2.4	3.7	118	104	1.7	-2.4
チヨニシキ	本年	8/5 9/18	38.1	285	-	40.9	69.8	373	-	33.1
平田村	平年	8/7 9/23	37.7	310	7.6	39.5	69.9	453	10.5	41.4
	平年差・比	-2 -5	101	92	-	1.4	100	82	-	-8.3

(2) 成熟期及び収量調査(表2)

- コシヒカリを中心に稈長が平年よりも長かったが、台風等が少なかったため、成熟期時点での倒伏程度は少なかった。
- 精玄米重(収量)は須賀川市岩瀬や石川町のコシヒカリでは穂数が多く、粒数が多くなったため、平年よりもやや多かつた。長沼のコシヒカリや平田のチヨニシキは1穂粒数が少なく、粒数が少なくなったため、平年よりもやや少なくなった。

表2 成熟期調査及び収量調査結果 (平年は令和2~6年の平均値を使用)

		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	倒伏程度 (0~400)	全重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	1穂 粒数 (粒)	粒数 (×100/m ²)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	玄米 タンパク質 (%)
コシヒカリ	本年	92.2	18.1	412	114	169.2	54.2	65.9	270	90.5	22.4	5.8
須賀川市	平年	91.7	18.2	409	-	173.7	65.1	77.4	331	83.6	22.1	5.8
長沼	平年差・比	101	99	101	-	97	83	85	82	6.9	101	0.0
コシヒカリ	本年	101.0	18.1	427	100	178.4	61.1	73.2	323	91.7	22.8	6.1
須賀川市	平年	94.3	18.2	391	-	149.5	54.1	78.5	319	82.1	22.0	6.0
岩瀬	平年差・比	107	99	109	-	119	113	93	101	9.6	104	0.1
コシヒカリ	本年	103.2	19.8	384	145	174.8	62.9	81.0	334	89.8	22.8	6.2
石川町	平年	89.9	18.8	351	-	157.8	59.4	81.3	314	86.7	22.1	5.9
	平年差・比	115	105	109	-	111	106	100	106	3.1	103	0.3
チヨニシキ	本年	74.6	19.2	325	0	144.4	52.2	68.1	238	96.0	23.3	6.1
平田村	平年	78.0	18.6	358	-	146.3	59.5	74.1	266	89.0	23.3	6.3
	平年差・比	96	103	91	-	99	88	92	89	7.0	100	-0.2

3 玄米品質について

- 管内の1等米比率はコシヒカリで約96%、ひとめぼれで約92%となり、品質は良かった(表3)。
- 天のつぶは斑点米カメムシ類の影響を受けやすく、1等米比率は約85%となつた(表3)。
- コシヒカリの落穂要因として胴割があつたが、10月以降の検査で多くみられたため、刈遅れによるものと推察される。
- 高温登熟による白未熟粒や、斑点米カメムシ類による被害粒が心配されたが、色彩選別機の普及や、無人航空機等(無人ヘリやドローン)によるカメムシ類の防除が進んだため、影響が少なくなったと考えられる。
- (参考:無人航空機等による防除面積(届け出面積) 約1800ha)

表3 須賀川農業普及所管内主要品種の等級比率

品種名	等級比率			落穂要因等
	1等	2等	3等	
コシヒカリ	95.5%	4.1%	0.4%	斑点米カメムシ類(61.6%)、胴割(21.4%)
ひとめぼれ	92.2%	7.3%	0.4%	斑点米カメムシ類(90.4%)、胴割(2.3%)
天のつぶ	84.7%	13.6%	1.7%	斑点米カメムシ類(95.8%)、胴割(2.1%)

4 次年度に向けて ~ 雑草イネに注意を! ~

- 高温により生育ステージが年々早まっています。今後も温暖化により生育ステージが昔と比較して早くなることが予想されるため、早めの準備を行いましょう。
- 斑点米カメムシ類は年々発生が多くなっていますので、次年度以降も薬剤による防除や適期草刈りなど対策をとるようにしてください。
- 管内の雑草イネ(赤米)の発生エリアが拡大しています。脱粒性があり、発見が遅ると対策が難しくなるため、発生があった場合は早めの対策をお願いします。



斑点米カメムシ類 雜草イネ

福島県各種防除対策は
QRコードから確認できます